

～友禅技法の紹介～

- 1 — 白生地を裁断し、先ず仮絵羽（かりえば）する
下絵 そこに紫露草の花弁から抽出した藍花（あいばな）で、
生地に直接図柄を骨抜きする
- 2 — 下絵の通りに、糯粉から作った糸目糊を細く線上に置く。
糸目糊置き このため、糸目友禅と名称がつく。
- 3 — 糸目を置き終わった布を、柱と柱の間に長く張り、うすく
地入れ 布糊を溶いた液を大印毛で満遍なく引いていく。
糊を布に定着させる。
- 4 — 乾いた布の模様部分に、更に大豆の豆汁を筆で丁寧に挿し
豆地入れ 込み、泣き（染め出し）を防止する。
- 5 — 生地を伸子（しんし）に張り、横張りを掛けて平らにして
色挿し 溶いた染料の色を、模様の中に筆または刷毛で染めこむ
- 6 — 色を挿し終わった布を、蒸気釜で約1時間程、蒸す。
空蒸し これで色素が布にほぼ定着する。
- 7 — 蒸しあがった模様の部分を、糸目糊と同様の「伏せ糊」で
伏せ糊 満遍なく覆う。
- 8 — 地入れに同じ。糊を定着させる。
染め地入れ
- 9 — 地入れ同様、布を張り、大刷毛で地色を全面に施す。
地染め
- 10 — 空蒸し同様、釜で1時間蒸す。全体の色が定着する。
本蒸し
- 11 — 友禅流し。昭和初期までは川で行われていたが、
水元 現在は小型のプールに水を張り、水洗いする。
- 12 — 染め上がった作品に、線描き、金箔押し、金泥描き、
仕上げ 金線置き等々、上仕上げを施す。
- 13 — 染めの加工上で縮んだ布地を、蒸気で均一に巾出し。
湯のし
- 14 — 加工途上でのあらゆるシミを取り除く。
染み抜き
- 15 — お好みで豪華さを加えるための和刺繍を施す。
刺繍
- 16 — 注文誂えに沿って本仕立て。一昼夜寝押しをして仕上がり。
仕立て

仮絵羽：着物の反物を仮に仕立てた状態

糸目：糸のように細い

5の工程を
体験します



約1ヵ月後に
作品が出来上がります★
完成品を会館へ
取りに来ていただきます。

後藤友禅
染色工房

